

## 磐城山遺跡（第5次）発掘調査スライド説明会資料

- |   |      |                       |
|---|------|-----------------------|
| 1 | 調査期間 | 平成24年6月25日～平成25年1月11日 |
| 2 | 調査場所 | 鈴鹿市木田町字上條             |
| 3 | 調査面積 | 約620㎡                 |
| 4 | 調査機関 | 鈴鹿市考古博物館              |



磐城山遺跡航空写真（東上空から）

## 1 はじめに

今回の調査は平成24年度に実施したものです。発掘調査は平成23年度から継続して行っており、これまでの調査区の北東が第5次調査区になります。

これまでの発掘調査の成果から、磐城山遺跡は主に弥生時代後期（今から約1,800年位前）の集落跡として使われていて、後に古墳時代後期頃（今から約1,500年位前）にも集落が営まれていることが判明しています。これまでの4回に航発掘調査の結果、100棟をこえる竪穴住居跡が見つっています。

今回の調査区でも竪穴住居をはじめとした集落跡が発見されることが想像されました。また、第1次調査の際には、弥生時代後期に集落を区画する環濠(かんごう)と呼ばれる大溝が、ちょうど木田町の交差点の辺りを斜めに掘削されていることが判明しています。今回の発掘調査では、竪穴住居の広がりを確認するとともに、この大溝が丘陵の縁に沿って集落を囲い込むように作られているのかどうか一つの検討課題でもありました。

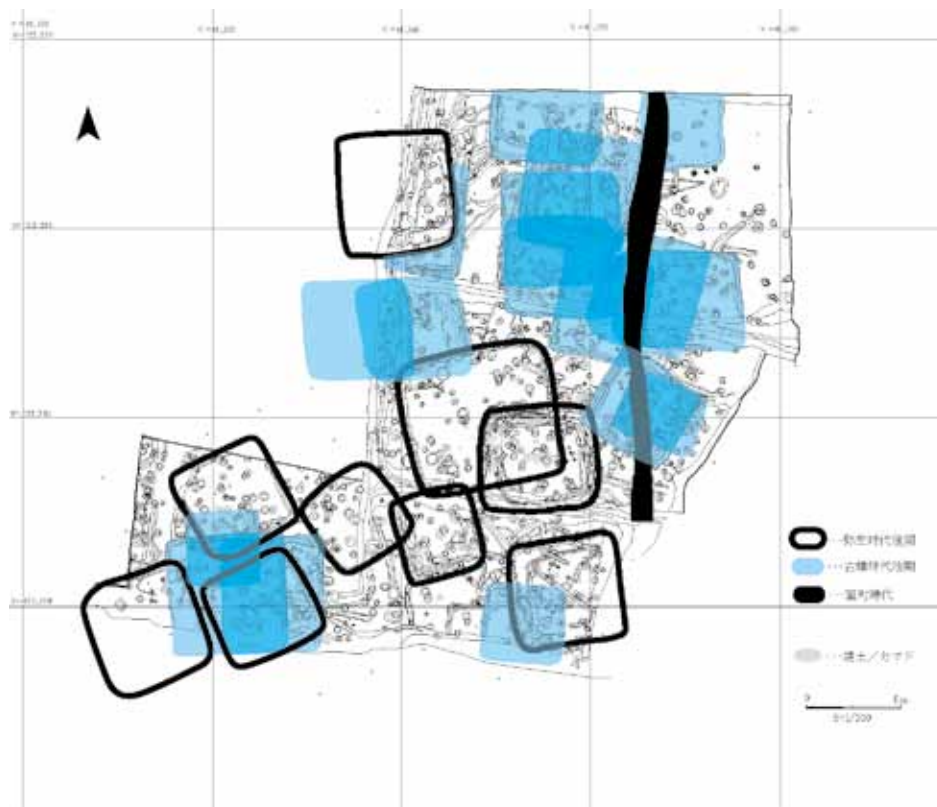
## 2 調査成果

約620㎡を発掘調査した結果、想像されていたように竪穴住居43棟以上が確認されました。弥生時代後期と古墳時代後期のものが重複して築かれていて、非常に複雑な状況で発掘調査に熟練された能力が必要とされます。これらの遺構（柱穴や溝など）の密度は市内でも随一で、調査には非常に時間がかかっています。

調査区の北側では主に古墳時代後期の竪穴住居のみが見つかりました。調査区の中ほどから南側にかけては古墳時代に加えて、弥生時代の竪穴住居も見つかるようになります。さらには、部分的に鎌倉時代から室町時代の土器や地割溝なども確認されました。これらは、磐城山遺跡の西側に登録されている木田城跡に関連する遺構だと考えられます。

このように竪穴住居の広がりには丘陵の北端まで満遍なく広がっていることが確認されました。ただし、特に北東側には古墳時代の集落のみで弥生時代の痕跡は希薄となることが明らかとなってきています。また、弥生時代後期の環濠は、あるならば第5次調査区の北端を北西から西へのびていると想定されましたが、発見することはできませんでした。このことから、環濠は集落をぐるりと囲い込むようなものではなく、丘陵の先端を断ちきるように直線的に掘られたものと考えられます。

以上、磐城山遺跡は非常に濃密な遺構・遺物が包蔵されており、その密度は県内でも随一です。鈴鹿市の歴史を考える上で重要な遺跡であり、今後とも継続した調査が必要とされます。



遺構の配置図 (縮尺1/400)



写真1 調査前の風景(西から)



写真5 竪穴住居4掘削風景(北から)



写真2 表土除去の様子(北から)



写真6 竪穴住居7・15出土須恵器(北から)



写真3 重機掘削後の様子(西から)



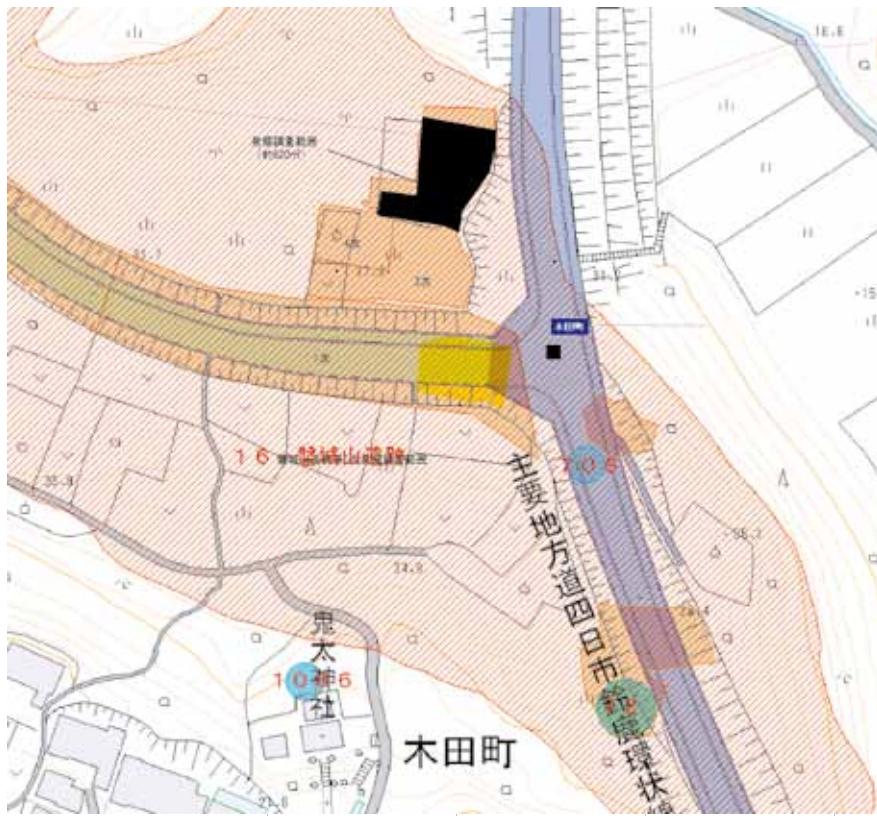
写真7 竪穴住居8-14完掘状況(南から)



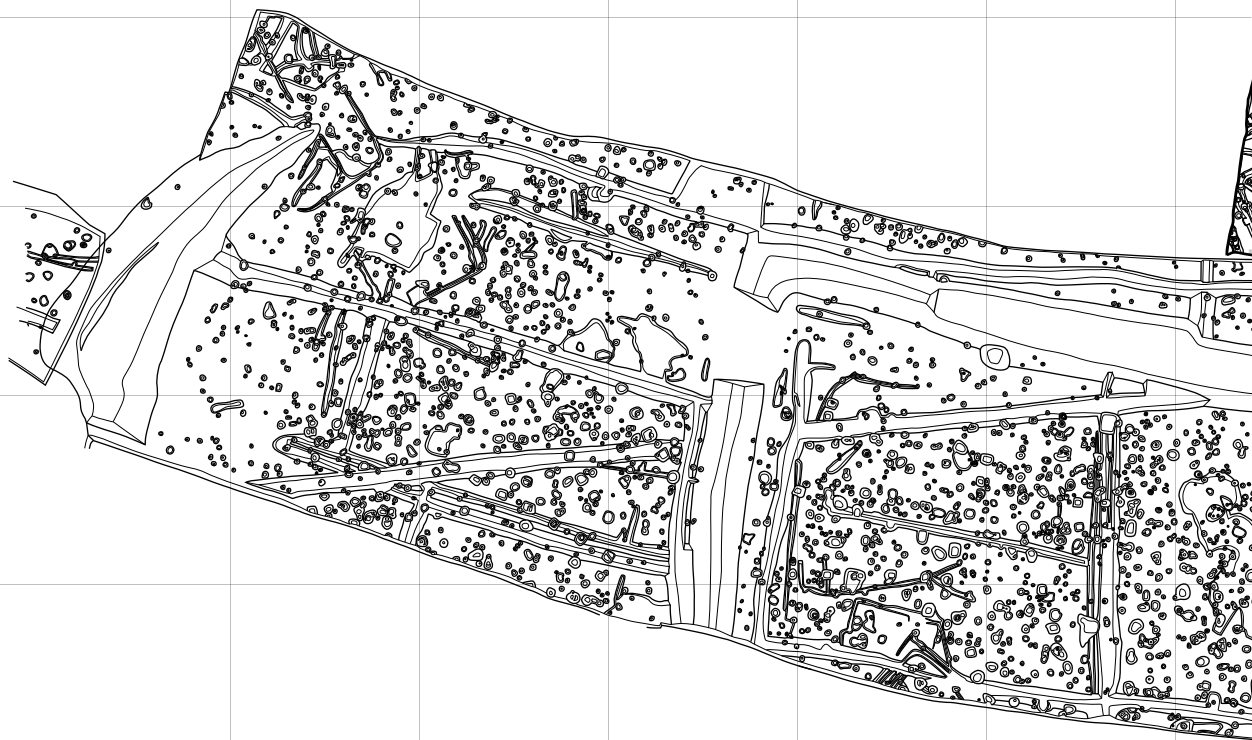
写真4 竪穴住居1等検出状況(南から)



写真8 北区完掘状況(西から)



磐城山遺跡第5次調査区（縮尺任意）



X=122,220

X=122,230

X=122,240

X=122,250

X=122,260

X=122,270

X=122,280

X=122,290

X=122,300

X=122,310



環濠

査区 遺構平面図 (S=1/400)



写真9 竪穴住居 35/36 検出状況（西から）



写真13 竪穴住居 59 出土砥石（西から）



写真10 中区完掘状況（西から）



写真14 竪穴住居 65 出土土器（北から）



写真11 竪穴住居 47/57 完掘状況（西から）



写真15 西区完掘状況（西から）



写真12 南区完掘状況（西から）



写真16 現地説明会の様子（南西から）